

広葉樹の 山 で稼ぐ

ヤマザクラ、ホオノキ、ケヤキ、トチノキ——
いろいろな木があるのが広葉樹の山のいいところ。
なかには、高く売れるお宝の木が眠っているかも
ワクワク、楽しい「里山林業」始めてみませんか。

ホオノキは代表的な「雑木」だが、加工品の
原木として人気で、大径材ほど価値が高い
写真=尾崎たまき



様々な樹種が混生する雑木林の裏山



筆者（59歳）
広葉樹施業を進める林業普及員として、栃木県内の多くの里山林を見てきた。目下、広葉樹で稼ぐ「里山林業」を研究中



売れる広葉樹を探しに行く

うちの裏山は宝の山!?

津布久隆（栃木県林業木材産業課長）

写真：尾崎たまき（*以外）

チップで売るなんてもったいない

読者のみなさんの中には、雑木林（里山の広葉樹林）をお持ちの方も多いと思いますが、山はどんな状況でしょうか？「見て見ぬふり」なんて声が聞こえた気がします。

現在のわが国は「広葉樹は切ってもチップにしかないし、業者に頼めば赤字」という考えが一般的で、全国各地に暗い高齢広葉樹林が広がっています。

ある調査によると、国内で使われる広葉樹材の9割が輸入に頼っており、国産材は1割。しかも、国産の9割以上はチップ用で、材として活用されるものは、全需要量の0・4%しかないそうです。

50年ほど前なら、雑木林は薪や炭などの活用で適度に更新され、あまり大きな木がなかったため、雑木を材にする発想がなくても仕方ありません。でも、なかには育てれば材材として人気がある木があることをご存じでしょうか。

それでは立木を伐採してチップより高く売って、その後を生えてくる低木で稼ぐ「里山林業」の話をしていきます。